

ベトナムに売り込もう

日高町名物 サバコロッケ輸出へ前進



松本町長と懇談する早川代表㊦と小島さん㊧

日高町の名物「サバコロッケ」をベトナムへ輸出しようと、現地輸入会社を運営する株式会社マルコシ・シガルの早川元代表（北海道根室市）が7日、日高町を訪れ、商工会関係者や松本秀司町長と懇談。ベトナムで今後PRしていくことを約束した。

日高町商工会（山田理司会長）では3年前からベトナムへの輸出を模索しており、ベトナムで4年間勤務経験のある日本貿易振興機構（JETRO）の小島正好さんと協議を重ねて

きた。小島さんがベトナム進出を支援した早川代表にサバコロッケの話を持ち掛け、今回、輸出実現へ前進した。

早川代表は根室市でスーパーマーケットを経営しながら、ベトナムに輸入会社を展開。主に北海道のスイーツや海産物などを輸出している。小島さんからサバコロッケを紹介され、試食しておいしかったことから、前に進めていくことになった。どのような思いでコロッケが誕生したのかなど、もっと深く知ろうと小島さんと一緒に日高町を訪れた。すでにサンプルをベトナムへ送っており、これからたくさんの人に食べてもらうことが

スタートライン。松本望され、早川代表は「と点があれば日高町に伝町長から「サバコロッケにたく食べてもらいたい。ベトナムの人をぜひベトナムで売って、好評ならどんどんにしっかりPRしたり込んでほしい」と熱輸出していくし、改善い」と話した。

「さばコロッケ」ベトナムへ輸出

北海道の食品会社が前向き

日高町で水揚げされたサバを使った「さばコロッケ」のベトナムへの輸出に、北海道の食品スーパーマーケットを手掛ける会社「前向き」に取り組むことになった。サンプルをすでに現地へ送っており、コロッケ文化がないだけに、新たな商品としてベトナム人に受け入れられるかが焦点で、関係者は今後の消費拡大に期待を寄せている。

日高町商工会の荊木宣雄

事務局長が、2020年12月から「さばコロッケ」をベトナムへ輸出を検討していた。その際、わかやま産業振興財団派遣事業で知り合った日本貿易振興機構

(ジエトロ)の小島正好さんが、ベトナムへ食品輸出のため出店を検討していた食品スーパーマーケットの株式会社シーガル北海道根室市の早川元代表取締役に「さばコロッケ」を紹介。

早川代表が興味を持ち、日高町商工会からは「さばコロッケ」のサンプルを配

送。社員が試食し好評で、すでにベトナムの量販店などに卸す店を立ち上げていることから、現地にも送り、ベトナム人の反応を見たいという。7日には早川代表や小島さん、山田理司日高町商工会長らが、松本秀司日高町長を表敬訪問し、経緯などを話した。

早川代表は「ベトナム人は商品のストーリーを大事にするところがあるので、詳細な情報があれば売り込める。これを足がかりにしたい」と前向き。荊木事務局長も「ベトナム語で紹介したチラシなども用意できる」、松本町長も「ベトナム人は日本に友好的でこれから広がる市場。着実に売り込んでもらえたら」とPR。

「さばコロッケ」はミンチ状にしたサバを北海道産のジャガイモに練り込んでおり、味付けに梅酢を加え、臭みを消しながらサバの風味を生かした南蛮漬けにしており、ご当地コロッケ日本一決定戦「第7回全国コロッケフェスティバル」で特別賞を受賞している。小島さんは「ベトナムではコロッケ文化は今のところないが、給料があがって日本食が食べやすい環境にはなってきた」と、早川代表は「ベトナムで好評なら、改善点などあれば、日高町へフィードバックしたい」と話した。



町長室で松本町長（右）に取り組みを話す早川代表（中）ら